



「刺激・感激」

京都市立二条中学3年 新谷 心苗

ザイサンの丘で見たこのモザイク画。1937年、モンゴル軍とソビエト連邦軍が協力し、日本・ナチス（ドイツ）に勝利した時の戦勝記念碑らしい。たくましく凛々しいモンゴル・ソ連軍と踏みにじられる日章旗。これだけ見れば親日国とはかけ離れているように感じられ、親日国と聞いていたのでとても驚いた。

しかし、モンゴルには思ったよりも日本語を話せる人が多くまた、私が出会った人はみんな日本のことをよく知っていた。またホストファミリーはとても暖かく、1週間の滞在は非常に楽しかった。

そんなモンゴルでもっとびっくりしたことがある。それはモンゴルの学生がものすごく前向きでパワフルなことだ。私が訪れた高等専門学校の生徒は日本に留学するため、数学や化学などの勉強に加え、日本語の勉強まで熱心に取り組んでいた。日本に留学して何を学ぶのかだけでなく、将来どのように自国に貢献するのかまで目標がはっきりと定まっていた。また、モンゴルでは日本以上に女子生徒が勉強熱心だということを知った。それは将来力の強い男の人に負けず収入の良い仕事に就くためらしい。

一方で私といえば、将来やりたいことは定まってきたもののそのために具体的な努力は何もしていなかった。何をすればいいのかわからず周りに流されたまま、このままでも大丈夫だろうと漠然と生きてきた。そこにモンゴルの学生との差を痛感した。この刺激を忘れず今日から私はひとつひとつの行動が将来どう繋がるのか意識して努力していきたい。